

《コース専門教育科目 コース専門応用科目》

|       |         |       |          |          |       |
|-------|---------|-------|----------|----------|-------|
| 科目名   | 多文化保育研究 |       |          |          |       |
| 担当者氏名 | 早川 淳    |       |          |          |       |
| 授業方法  | 講義      | 単位・必選 | 2単位・選択必修 | 開講年次・開講期 | 4年・春期 |

《授業の概要》

保育や教育現場で、国際理解教育の基礎的理論を理解し、それを基に作成したプログラム及び教材等について研究する。多文化保育の実践者としての保育の専門性を高めるために研究への視点を身につける。進め方：多文化保育に関する資料や文献から理論的知識をまとめて、保育現場での多文化保育実践プログラムの研究・開発を保育現場の保育活動に活用できる教材・作品の構成を考慮していく。

《授業の到達目標》

目標：多文化・国際理解教育の理論的知識と実践力を高める  
 テーマ：多文化保育・教育の専門性を高める

《成績評価の方法》

平常点（授業態度及び授業への取り組み） 30% 課題（個人別・グループ別） 30% 期末作品課題（教材） 40%

《テキスト》

授業に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

咲間まり子他『多文化保育・教育論』未来出版2014年  
 多文化共生キーワード事典編集委員会編『多文化共生キーワード事典』2004年

《授業時間外学習》

予習として：保育・教育現場で対応できる専門性を身につけた教育者の育成を目的としている。そのためには多くの知識を身につける必要がある、そのためには海外の文献や情報の収集が必要となり、そのためには多くの資料を収集して、それをまとめて発表する。復習として：資料をまとめ、それらを考察して、まとめる。

《備考》

《授業計画》

| 週  | テーマ                   | 学習内容など   |
|----|-----------------------|--|
| 1  | 授業総括・多文化保育研究とは        | 多文化保育・教育の現状をグローバルな視点から考察し、注目されている研究論文を紹介していく。                                  |
| 2  | 多文化保育・教育理論の再考察        | 多文化保育・教育はアメリカの公民権運動が発端であり、アメリカや北欧が移民の受け入れから始まった、それに対して理論の再考察をしていく。             |
| 3  | 多文化共生社会とグローバル化での保育・教育 | 現在は交通の便利さが人の行き来を可能にし、インターネットを通じて世界の情勢がすぐにわかる。それには教育はどのような役割を果たせるのかを勉強していく。     |
| 4  | 多文化保育・教育実践の現状と課題（日本）  | 日本の多文化保育・教育は第二次世界大戦以降である、オールドカマーといわれる人達と1980年以降に來られたニューカマーといわれる人達から現在の現状を学んでいく |
| 5  | 多文化保育・教育実践の現状と課題（海外）  | アメリカと西欧の保育・教育を歴史を中心に勉強しながら現在の保育・教育の現状と役割について学んでいく。                             |
| 6  | 多文化保育者・教師の専門性とは       | 保育・教育の現場の保育者や教育者の言葉がけの大切さが子どもや保護者に信頼されることの重要さや周りの子ども達へのグローバル化にも影響していくことを学んでいく  |
| 7  | 多文化保育・教育の実践研究1（アメリカ）  | アメリカは子どもへの法律があり、一人にしておくことは禁止されている、その教育事情や教育制度、多文化教育の事例や文献のまとめをグループごとに研鑽し、発表する  |
| 8  | 多文化保育・教育の実践研究（西欧を中心に） | 多文化保育・教育はイギリス、ドイツ、フランスの教育事情や教育制度、多文化教育の事例を文献やインターネットを通じてグループごとに研鑽して、発表していく。    |
| 9  | 多文化保育・教育の実践研究（北欧を中心に） | スウェーデン、フィンランド、ノルウェーのその教育事情や教育制度、多文化教育の実際を文献やインターネットを通じてグループごとに研鑽して、発表していく。     |
| 10 | 多文化教育の領域別の研究          | 世界の国々の教育事情、教育制度、多文化保育・教育の現場からの情報をもとに子どもの取ってどのような保育・教育がいいのかをディスカッションして考察していく。   |
| 11 | 多文化教育に対応可能な環境構成の実際と討議 | 保育・教育現場での一番重要なことは環境構成である。現場ではいろいろな国の子ども達がいる設定でディスカッションして考察していく。                |
| 12 | 特別支援を要する子どもの事例        | 海外の国での障害のある子どもの保育・教育の実践を事例を通じて研究し、研鑽していく。                                      |
| 13 | 多文化保育・教育の計画案作成と実践研究   | 外国の子どもや他の子ども達にとって、成長できる保育や教育を事例を通じて研究し、自分なりの教材を作成する。                           |
| 14 | 多文化保育・教育の実践           | 一人ひとりが自分の教材を使って模擬授業して、良かった点や気をつけなければいけない点について討議していく。                           |
| 15 | 多文化保育・教育のまとめと今後の課題    | 今までの講義のまとめと今後の課題についてまとめていく。  |